



ロータリー：
変化をもたらす

2017-18 R I テーマ

- ★開会点鐘：成田 弘明 会長
- ★国歌：ー
- ★R ソング：手に手つないで
- ★四つのテスト：ー

2017～2018 Weekly Report No.35

本日のプログラム

2018年 3月29日(木) 12:30～

委員会担当プログラム

ロータリー情報委員会

次のプログラム

2018年 4月 5日(木) 12:30～

ゲスト卓話：伊藤 栄三 様

遠軽地方防衛連盟 会長

成田弘明会長ターゲット：誰かのために今できる事を

会長報告 成田 弘明 会長

今月はロータリー6つの重点分野のひとつであります水と衛生月間です。丁度今日の新聞に出ていたのですが、3月22日の今日は国連が定めた「世界水の日」です。私達日本人は、水道の蛇口をひねれば安全な水が出る時代になり、世界各地で起きている水の問題について平和ボケしているように感じます。地球は水の惑星であり、地球全体の水の量は約13.86億km³であり、飲み水や農業用としてすぐに利用できる水は全体の0.01%しかありません。

WHOとユニセフの調査によりますと、2015年では川から水を運ぶために毎日30分以上かけている人が約8億4400万人・汚染された水が原因で死亡する方が50万人・野外でしか排泄できない環境にいる人が約9億弱いるようで深刻な問題となっており、国連は2030年までに全ての人に水と衛生の確保をあげている様でありませんが、相当難しい問題であると思います一刻も早く構築して頂きたいです。

さて、20日に地区の奨学金・学友委員会の上田会員と本年度奨学金受給に決定致しました北光学園園児、遠軽高校の生徒さんに奨学金の目録を渡しに行ってきました。生徒さんは札幌学院大学に進学が決定しており、4年間アルバイトをしながら頑張っていくとの意気込みを語っており、また堤園長からは、この生徒は高校では山岳部に入っており、一般の高校生よりも忍耐強く率先して行動を起こす子です。と述べておりました。

北光学園では現在は定員45名に対し33名の入園で内高校生は9名、その内現在1年生の1名が再来年進学を目指しているようですので、園長からも、その時はまた宜しくお願いします、との事でした。

幹事報告 佐久間 英昭 幹事

① 会員候補者の推薦があり臨時理事会において会員資格条件を有するとして承認しました。

会員候補者＝石井朋子様。(株)ノース技研(北見市)。推薦者＝竹内徳治君。

異議申立がある場合は理由を付記した書面を以て7日以内に幹事へ提出して下さい。

② 公益財団法人米山梅吉記念館より「賛助会入会のお願い」が届いています。



委員会報告

◇東海林 勉 次期幹事⑤

4月21日(土)、22日(日)、帯広で開催のPETS、地区協議会の交通について連絡します。

- ・4月21日(土)：昼過ぎマイクロバスで出発
 - ・4月22日(日)：早朝、会員の車で出発
- 出発時間等、詳細は後ほどご連絡します。

◇高井 一博 親睦活動委員長

日ハム観戦ツアー日程が決まりました。平成30年6月16日(土) 対ヤクルト戦14時試合開始。終了後、懇親会を実施、札幌宿泊の計画です。会員はもとより家族の方の参加も大歓迎します。詳細が確定次第、改めてご案内します。

◇海野 功 職業奉仕委員長①

例年、小学校新1年生に贈呈している「よいこのかなかな」のクリヤーホルダーを、3月20日、河原英男教育長(会員)②に引き渡してきました。

今年の新入学児童の総数は150人、最多は南小の50人、少ないのは瀬戸瀬小と白滝小の2名とのことで、大幅な少子化に驚きを感じました。

【名前等後の○数字は写真の中の番号】

本日のプログラム 会員卓話

前島 英樹 君③

本日は自分の職業である農業について、遠軽の歴史とからめてお話をさせていただきます。(レジメ参照)

昨年、町議会議員としての立場を頂き、よく遠軽は何を作っているんだ？ 特産品は何だ？ とよく聞かれるのですが、遠軽は酪農です。生乳と乳牛の販売で約50億の販売高あり、個人経営でも1億を超える方も多くいます。遠軽町の農畜産物の販売高のうち8割以上が酪農です。まずそこを認識して頂きたいと思います。そこで、遠軽の酪農についてお話ししますと、実は遠軽は北海道の酪農の先進地でもあります。

北海道はもちろん、日本ホルスタイン界をリードする著名な乳牛の繁殖家と指導者を数多く輩出しております。その中で3名ほどご紹介させていただきます。

三沢正男さんは、学田農場の出身、酪農先進地に赴き技術と知識を身に付け帰郷、遠軽町の酪農技術の指導に情熱を傾けますが、三男ということもあり、遠軽での就農をあきらめ、その後道南の地に移るも、北海道酪農の発展に尽力、後にその手腕を認められ、北海道議会議員とされました。

福田牧場・福田藤楠(とうなん)氏は、遠軽生まれではありませんが、大正3年生田原安国に入植、その後大正7年牧場経営に当たり、この時代においてアメリカ酪農を学ぶべく渡米、帰国後、地域の酪農振興に大きな影響を与え、戦後民選初の初代遠軽町長となりましたが、すぐに、英語が堪能であったため、GHQとの交渉役として道に請われ、副知事となり転出されました。

東海林牧場・東海林武夫(昭和20年戦死)、国夫(東海林勉会員の父)ご兄弟ですが、昭和17年、なんと乳量の日本記録樹立、戦後の酪農の再興期に家畜商として幾多の名系統のホルスタイン牛の導入を計り、本町に於ける乳牛改良の基礎確立に大きな貢献をされ、その系統は現在でも町内において中心的に活躍しています。

現在の状況を申し上げますと、4年前の2015年全国日本共進会では、遠軽町若咲内の山口由幹さんが第7部(経産牛30月未満)に出品した「リップランド アメイジングランディ」が部のトップにあたる優等賞1席を獲得しました。日本のチャンピオンです。

彼のお父さんである元えんゆう農協専務でありました山口哲朗氏は現在、北海道ホルスタイン農業協同組合の組合長としてご活躍されています。

遠軽で生産された生乳は政府買い上げで、地区指定であります佐呂間の森工場へと出荷され、そこでは主に牛乳よりもバター・チーズ・生クリームなどに加工されます。過去には佐呂間工場のバターか生クリームは皇室ご用達になるほどの品質だったそうです。

次に遠軽町民として是非、押さえて頂きたいハッカの歴史についてです。「学田農場を救ったハッカ」と書きましたが、明治30年、信太寿之(当時32歳、独身)をリーダーとする北海道同志教育会が教育こそ将来の日本に最も必要であるとの見地から、北海道の未開の地を開拓し、そこから生ずる利益をもって30年後に私立大学を開設し、国家の繁栄に寄与する、との壮大な理想郷建設の夢



をもって遠軽の地に入植しましたが、明治31年に発生した大冷害とその翌年の大水害は遠軽に集団入植したばかりの学田農場に多大な被害を与えて、離農者を続出させました。しかし、山形県からの移民の中には郷里でハッカ栽培の経験者がおられ、寒冷地に強いハッカに賭けてみようとして、明治33年以降よりハッカ栽培を行いました。それによって、農民の収入が急増し、学田農場は経済的な立ち直りを見せることができたのです。

ハッカの導入がなければ、学田農場は解散し、鉄道開設も遅れ、今日の遠軽の発展はなかったと考えます。

ハッカといえ、北見が有名ですが、栽培は遠軽の方が早く、北見に負けないぐらいの景気だったそうです。

その後、戦後も高収益作物として、栽培されましたが、昭和40年代頃から合成薄荷の開発、ブラジル産に置き換わり急速に減少していきました。

ですが、昭和60年代頃から、ハッカ栽培の技術を生かし青シソの栽培が行われています。幸うじて、今の遠軽の農業に繋がっている点であるといえます。

そして、現在の遠軽町において、唯一、昔のハッカの隆盛を伝えているものが、北海道遠軽高等学校の校章として残っています。ハッカの花と、『論語』の一節を引用した柏(カシワ)の葉を圖案化したものとあります。

今後の遠軽の農業についてですが、2025年には、兼業はほぼいなくなり、専業でも70戸を切ることが予想されます。このままでは、札幌ドーム(5.5ha)の1064倍である5,854haの農地の維持は極めて困難である状況です。担い手の不足によるいわゆる不耕作地が増えていくことは避けられません。遠軽町の貴重な財産である農地をどう維持していくのか？ 新規就農者を受け入れるために、町は独自の助成を出していく考えです。

実際には町内で成功している4件の新規就農者がありますが、意欲はあっても20代、30代で、いくら国と町の助成を頂いても極めて困難であるといえます。

遠軽町は平成17年に合併し、町の面積は5倍以上になりました。88%が森林とはいえ、前向きに考えれば、農地と森林が増えることで、新たな可能性とポテンシャルを秘めた地域ともいえるのではないのでしょうか？

合併前の旧遠軽町は商業と自衛隊の町だといわれていましたが、農業と林業も重要な産業であることを再認識して頂ければ幸いです。

ニコニコBOX 高井 一博 親睦活動委員長

東海林勉君 次男が医師国家試験合格 10,000円
前田篤秀君 ノーバジ 1,000円
2017-18年度合計 549,000円

☆閉会点鐘:成田 弘明 会長☆今月会報担当:本吉 春雄 委員
2017-18_35th-030

出席報告	例会日	会員数	出席計算 会員数	出席者数	メイク アップ	出席率	無断欠席
本間克明 出席委員長	3月15日	41	38	25	2	71.1%	
	3月22日	41	38	29		76.3%	

編集・発行:メディア委員会	
委員長:東海林勉	副委員長:藤田禮三
委員:竹森英樹 海野 功 佐藤直也 張江紀代美 本吉春雄 加藤幸徳	

2017-2018年度 国際ロータリー
会長:イアン H.S.ライズリー
第2500地区ガバナー 成瀬則之(網走RC)
第4分区分ガバナー補佐 川村壽光(中湧別RC)



遠軽ロータリークラブ www.engaru-rc.com
会長:成田弘明 副会長:金谷正一
会長エレクト:遠藤利秀 幹事:佐久間英昭
会計:島田光隆 SAA:渡辺政俊
直前会長:黒坂貴行 事務局員:佐藤郁子
◇1959年9月12日創立/1959年11月7日認証

Rotary



【事務局】〒099-0415 北海道紋別郡遠軽町若見通南2丁目 遠軽商工会議所内
Tel 0158-42-5201 Fax 42-5134 E-mail: info@engaru-rc.com
【例会場/日】北海道紋別郡遠軽町大通北1丁目 ホテルサンシャイン Tel 0158-42-1151 毎週木曜日12:30~13:30 *第3木曜日は夜間例会 18:00~(19:00)